

令和 8 年 9 月 29 日
16 時 00 分
西日本高速道路株式会社

E3A 南九州自動車道 妙見第一橋の復旧計画及び 通行止め区間の解除の見通しについて ～令和 10 年末頃に通行止めが解除となります～

NEXCO 西日本九州支社(福岡市博多区、支社長:西岡 大造)が管理する E3A 南九州自動車道 ^{みょうけん} 妙見第一橋 ^{だいいちきょう} については、令和 8 年熊本地震の影響により極めて甚大な損傷が発生したことから、「南九州自動車道妙見第一橋復旧に関する検討委員会」を設置し、専門的な見地から橋梁の損傷発生メカニズムの解明、損傷状況の評価および復旧工法等について助言をいただいております。

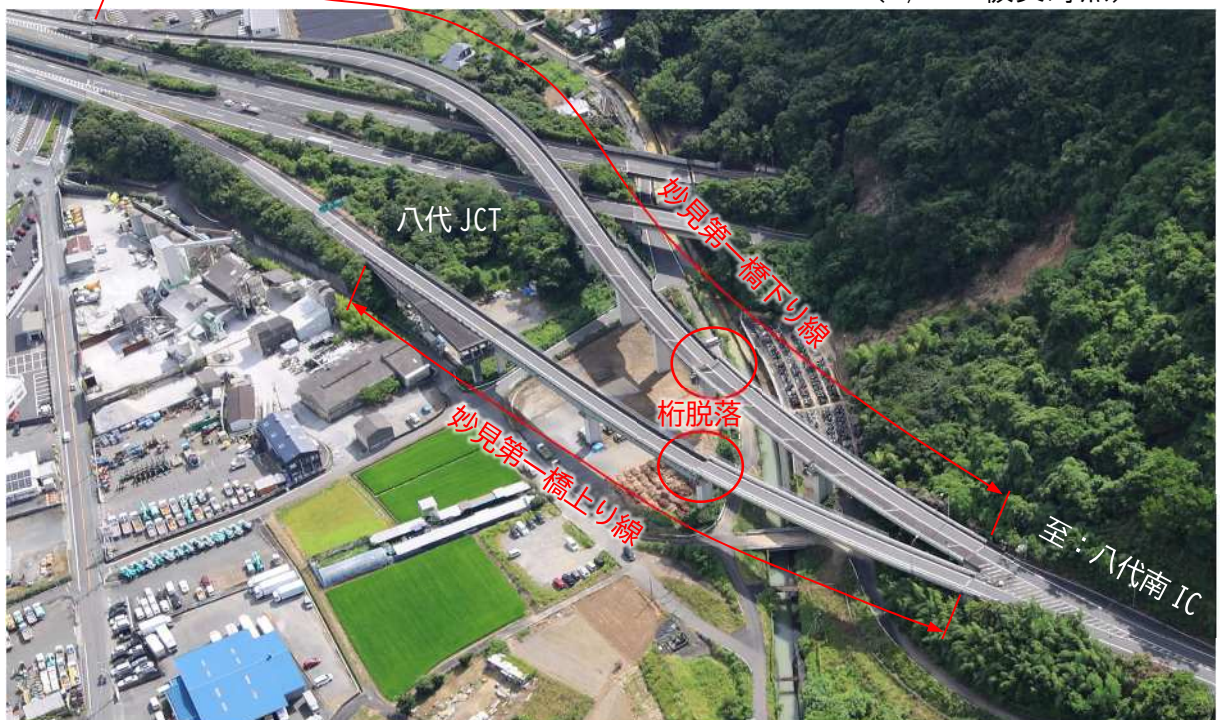
令和 8 年 9 月 27 日に開催された第 3 回委員会における審議結果を踏まえ、復旧工法を決定し、現在、本復旧に向けた設計に着手しております。今後、設計完了後に本復旧工事を実施し、E3A 南九州自動車道八代JCTから八代南IC間の通行止めの解除時期については令和 10 年末頃を見込んでおります。

お客さまには長期間にわたりご不便とご迷惑をおかけしておりますが、一日も早い復旧に向けて取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

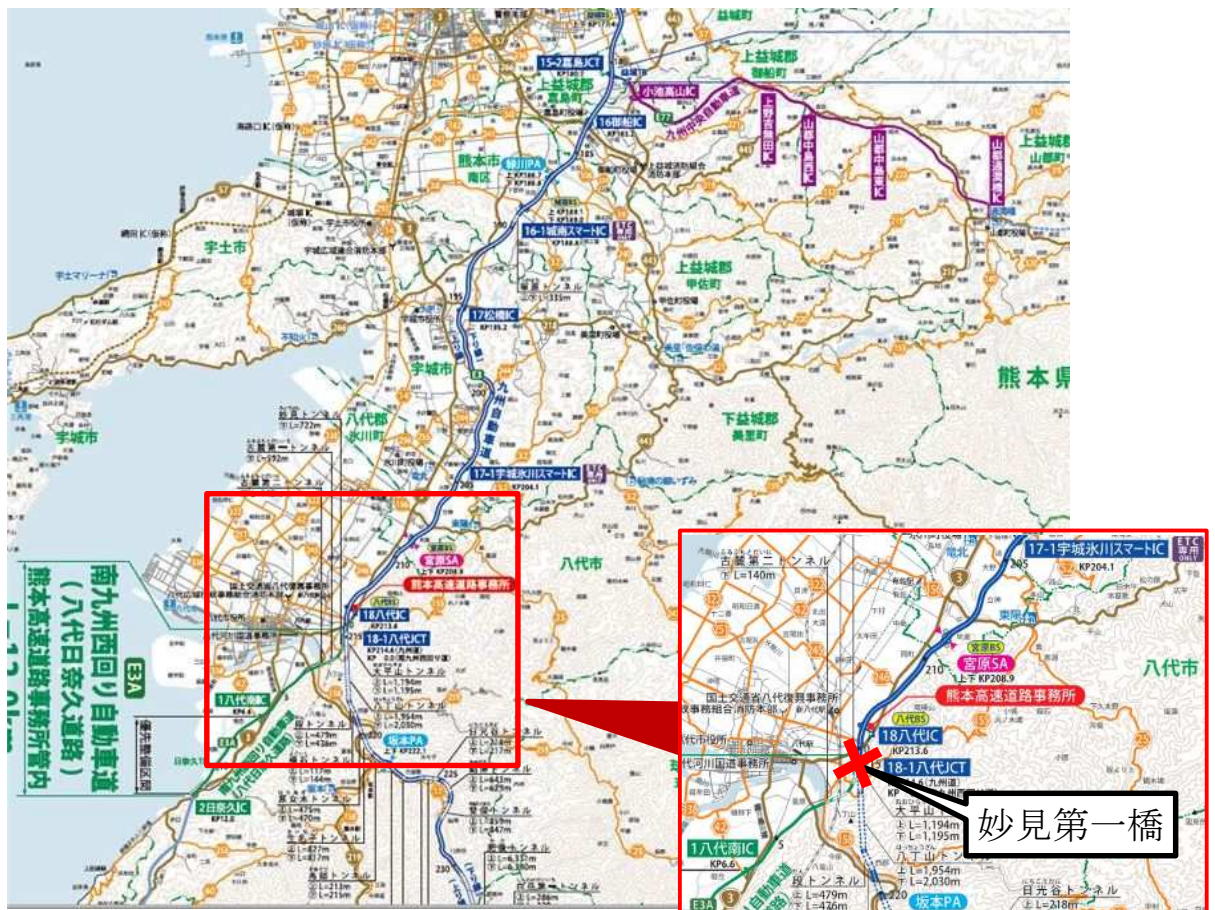
1. 損傷概要

- 1) 損傷内容 橋梁部桁脱落、路面の段差(約1.3m)
- 2) 住 所 熊本県八代市上片町

(7/28 被災時点)

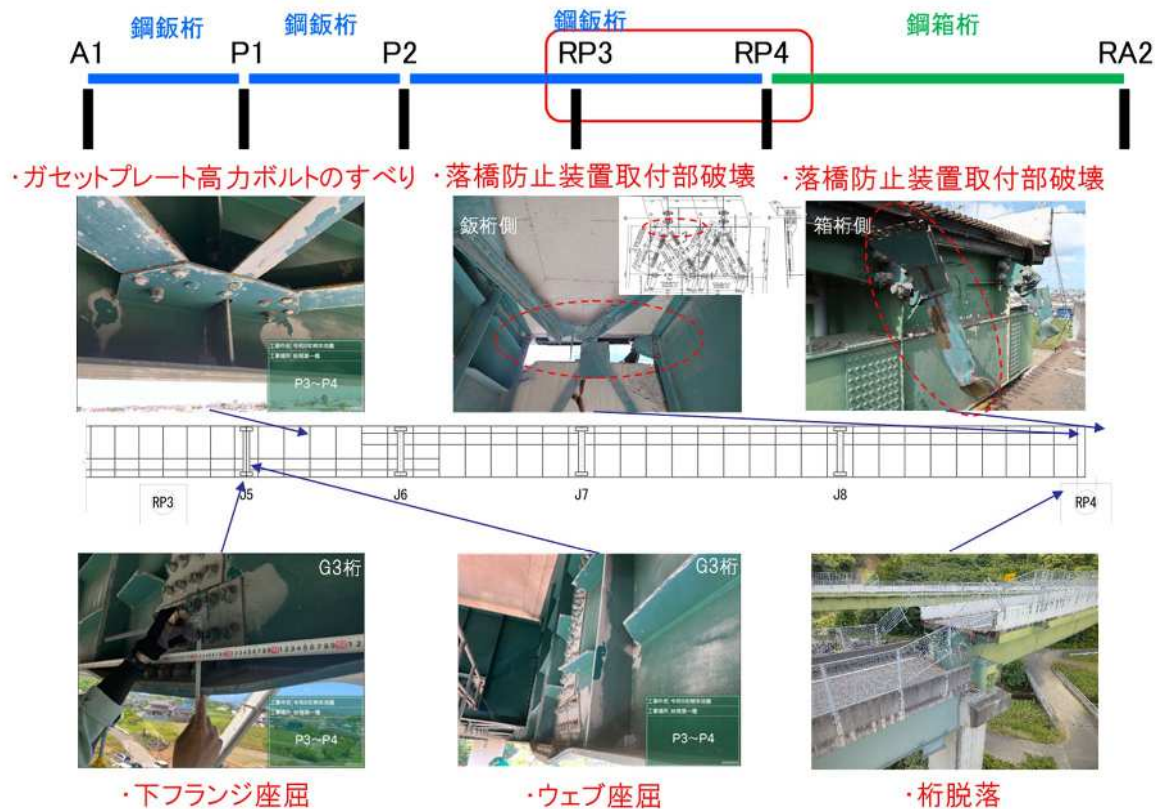


2. 位置図

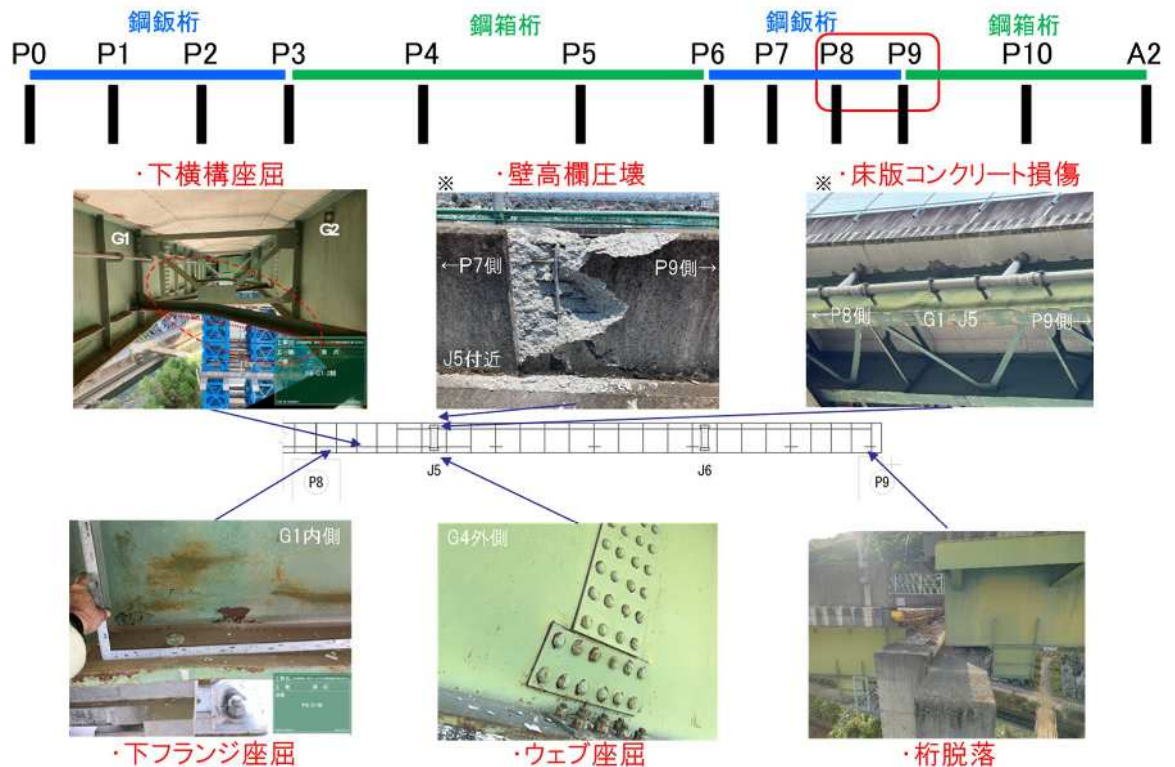


3. 主な損傷状況

【上り線】



【下り線】



4. 本復旧方針

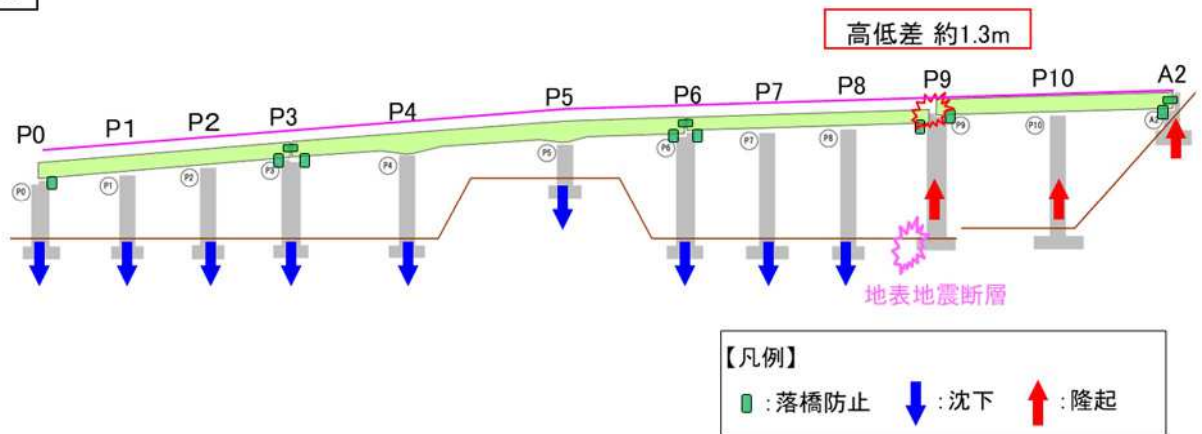
- ① 早期通行止め解除を最優先とする。
- ② 断層帯上に位置する橋梁の構造については、道路橋示方書の方方向性に合致させ、今回の地震による被災状況を踏まえた次に示す復旧方針とする。
 - 断層変位の予測が困難であることを踏まえ、人命に影響を及ぼすような落橋等の致命的損傷を可能な限り回避できる構造とする。
 - 供用期間中に今回と同様の地震が再び発生することも想定し、今回生じた地盤の変状と同程度の変状が生じた場合においても、被災後の速やかな応急復旧が可能な復旧性の高い構造とする。

5. 本復旧計画

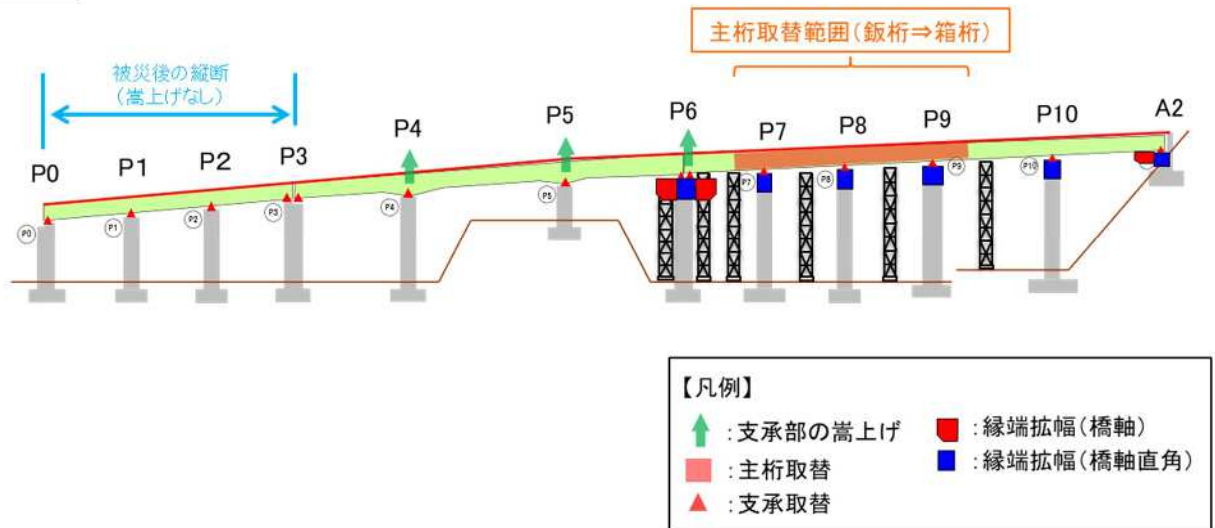
復旧方針に合致する、以下の構造を採用する。

- 橋脚の鉛直変位に対し、主に鈹桁区間を桁高の高い箱桁へ変更することで縦断線形を調整し、橋脚沈下に伴う橋脚上部の嵩上げを限定的とする構造。
- 地表地震断層交差部の前後区間の上部構造を連続桁とし、連続した上部構造全体で断層変位を吸収する構造。

被災後



復旧計画

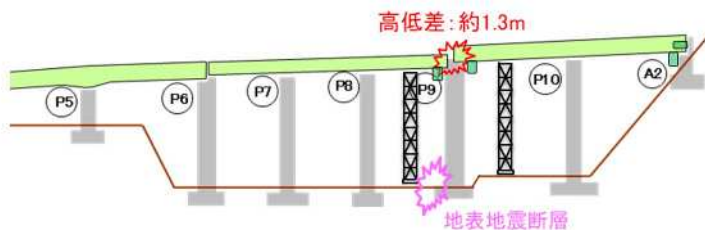


※支承取替、縁端拡幅の他、橋脚の耐震補強(RC・炭素繊維巻き立て等)を実施

6. 本復旧工事等のステップ案

本復旧工事完了までのステップ案は以下のとおりです。

現況 不安定な橋桁を支えるため、P9両側に仮設土台（ベント）を設置

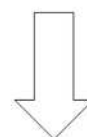


上部工撤去時の安全対策イメージ



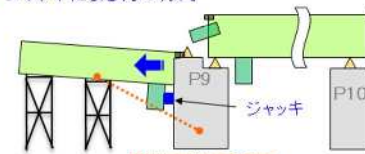
被災状況

→ 橋桁が橋脚に寄りかかり、力を与えている方向



桁撤去時の
安全対策を実施

← ジャッキによる力の方向



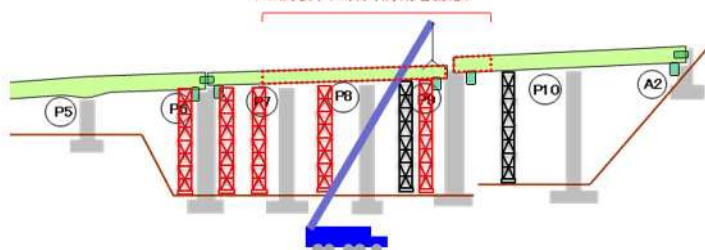
橋桁と下部工を固定

ジャッキにより桁に橋脚と引き離す方向に力を与え、桁に蓄積された力を解放

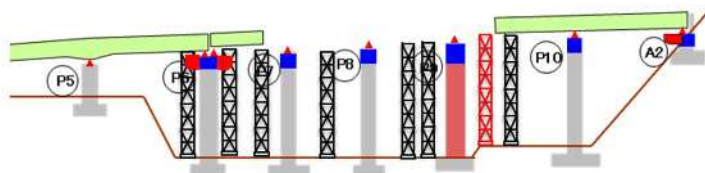
STEP-1 新たにベントを設置し、既設上部工を撤去

橋桁が橋脚に力を与えている状態であり、撤去の際に想定外の挙動が発生する可能性があるため、安全対策を行った上で桁の撤去を実施

P9側より、順次橋桁を撤去



STEP-2 損傷したP9橋脚の補修・補強、下部工の縁端拡幅、支承の取替えを実施



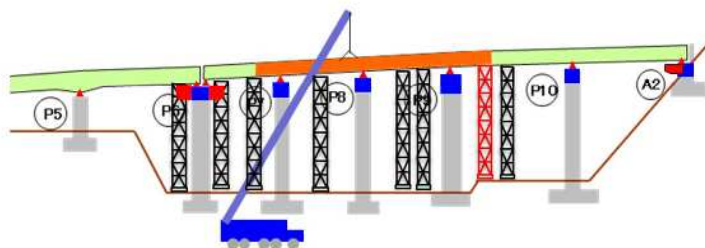
下部工の縁端拡幅（イメージ）



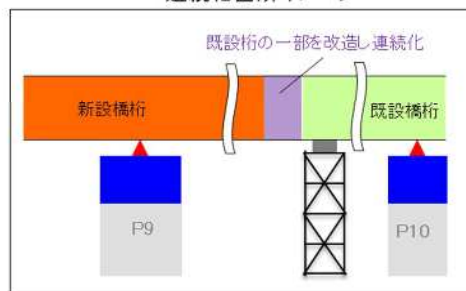
断層変位に対する落橋を防ぐために
下部工を拡幅

STEP-3 新設橋桁の架設を行い、床版設置、舗装等の橋面工を実施

完了後、通行止め解除（令和10年末頃）



連続化箇所イメージ



STEP-4 通行止め解除後、下部工の耐震補強を別途実施

以 上

令和8年熊本地震による被災状況と復旧見込み（高速道路）【参考】

9月29日 16:00時点

